

# 三河商人道

PART  
147

株式会社 大岡屋

代表取締役 鈴木裕之 君  
社長



年齢に関係なく「青年」という言葉を感じてほしい



『委員長をやった時の思い出は何をやったか覚えて無いけど（笑）とにかくみんなで飲んで、騒いで、色々な話をしながら仲良くなったのが楽しい思い出かな』とダンディスマイルでお話いただいたのは、株式会社大岡屋の代表取締役、鈴木裕之さん。

株式会社大岡屋は明治42年に創業し、戦後からは酒類卸業を営んでおられましたが、平成に入りだんだんと業者間の競争激化、粗利低下を受けて『これからは企業の歴史や規模でやっていけない』と考え、思い切って業態変更を決意されたそうです。現在は、卸売事業（二階堂酒造、サムライ日本プロジェクト、匠本舗）、CVS事業（サークルK）、外食事業（とりあえず吾平、赤から、けとばしやチャンピオン）、情報サービス事業（コンサルティング、セミナー、美容室向け求人事業）と多岐に渡って、事業展開を行っておられます。

業態は変われど、経営理念、原則は変わらず「社会と響きあい人々の快適な生活を創造する我々は、全体的な思考能力と新しいものを想像していく能力を高め当たり前のことを堂々としていきます」を理念に「①地域の生活者の欲しい商品・サービスを調達し、また他の地域に当地域の商品・サービスを発信する ②それらの商品・サービスを安定的に供給すること ③これらの業務に携わる人々の雇用を守る」という原則をもって事業に取り組まれています。

穏やかで物静かなイメージの鈴木さんのご趣味は、学生時代からの始めたマリン・スノースポーツ。しかしながら腰を悪くしてしまった現在は、ミャンマー支援やチャリティーゴルフなどの地域活動やボランティア活動を楽しんでいるそうです。

チャーターメンバーのお一人でもある鈴木さんの入会のきっかけと当時の御苦労をお聞きしてみました。「当時、父親の代わりに商工会議所に顔を出していて、そんな時、日比野さんから『岡崎の規模で青年部が無いのはいかん。今回、それを作ろうと思っているから、君も参加しなさい。』と声を掛けられた事がきっかけ。当時はとにかく出来たばかりだったから、全国大会に行っても参加者は少なく、とにかく目立って岡崎をアピールしようと派手（元気）に声を上げたりしていたよ（笑）と懐かしそうに終始笑顔でお話くださった鈴木さん。我々に青年部という活動の場を作っていただき、ありがとうございました。そして、ご卒業おめでとうございます。



壮麗な社屋ビル!!



学生時代の同級生コンビ



取材スタッフと記念撮影

取材担当 / 振興委員会  
安藤暁、大竹史将、太田陽之、金井淳一郎、志村文教、山本創、蜂須賀大、堀内俊次、加藤純也、安藤紀朋

